

縦 合 ク ラ ブ ひ ろ か わ

～ 4 月にお茶教室開講 お茶室を体験～

新しい受講生を迎え「お茶教室」を開催しています。

日ごろは、いこっとの和室で行っていますが、5月16日(月)は先生のご厚意で会場を移し、お茶室で総合クラブのメンバーと一緒に、お茶のいただき方を体験しました。

お茶室は、みなさん初めてで少し緊張した様子でしたが、先生のわかりやすい指導のもと、和やかな雰囲気の中、対話がはずみ、お茶を通じて心の安らぎを感じるひと時でした。

「お茶教室」は毎月第1・3(月)に開催しています。



〒総合クラブひろかわ事務局 (教育委員会事務局生涯学習係内) ☎0943-32-0093

広川文芸

ひろかわ短歌会



庭先に夏つばき咲くひっそりと誰を偲んで咲きいずるかや	姫野 洋子
夕間暮れ福田橋より見渡せば広川町もホタルの名所	蓮子 住雄
朝 <small>あした</small> には朱 <small>あけ</small> にしほむと知りながら待宵草をこの手に摘みぬ	青木佳代子
雨の日の太鼓の稽古つねよりもリズムに乗れず悪銭苦闘	姫野 深幸
雨近き夕べの庭にクチナシのましろき花がしきりと匂ふ	原 千恵子
むらさきのおじさい誇る花園にけさ凜として花菖蒲の黄	美座 時朗
日の出前くる雲ひろがる東から「天使の階段」まさに厳か	高橋 和子
なんとなく更けゆく日々のめまぐるし焦る心を宥めてゆかむ	野中ヨシ子
ひとはなぜあらそふのだらう指先のちひさな創がひりひり痛む	山下 整子
三歳と観るNetflix朝朝をハツカネズミの世界が招く	鹿田 恵
病む人を見守りせんと寝泊りす八十路過ぎしも役立つ幸に	結束 節子
麦秋や田起こし整地のトラクター田植え機とかわり早苗田つくる	野中 勝美

南北朝時代の郷土 その8

～征西將軍宮、高良社に観音経を奉納～

征西將軍宮が九州へ

これまで7回に分けて、現在の広川町域に絞って、話を進めてきましたが、範圍を筑後地域一円にまで広げてみたいと思います。

延元3年(1338年)8月17日のこと。後醍醐天皇の皇子である、義良親王・宗良親王・懷良親王・満良親王の4王子が、伊勢の港を一斉に出航したことが明らかになっています。それぞれに目的地は違っていて、懷良親王(以下親王と略)は征西將軍の任を受けて、鎮西(九州)を指していました。

ちなみに親王は、元徳2年(1330年)前後の出生(鎌倉室町人名事典)、と推定されていることから、この時には8歳ぐらいです。

親王一行は瀬戸内海の忽那島(現在の愛媛県松山市中島町)で、3カ年の滞在を余儀なくされた後、興国3年(1342年)5月1日、現在の鹿児島県山川港に到着します。味方の谷山隆信に擁されて谷山城に入りますが、ここで足かけ6年の滞在です。親王一行が菊池に到着したのは正平3年(1349年)

4月のことで、伊勢の港を出航してすでに12年近い歳月が過ぎていきます。

親王には、副將軍格としての五條頼元を筆頭に12人が随従(忽那家文書)していましたが、この年に親王は御成人(阿蘇家文書)です。

親王が目指したのは大宰府だったのですが、なぜこれ程の時間と遠回りの経路を強いられたかですが、理由があります。それはただ一つ。当時の九州は武家方(北朝)の勢力が、いかに強くなっていたかにつきまします。

宮方(南朝)が頼みとしたのは阿蘇氏と菊池氏でしたが、阿蘇氏は多々良浜の戦(13年前)での敗戦から、未だ立ち直れずに一族間でも内訌が生じていたの

で、主たる戦力にはなり得なかつた等によります。筑後では宮方の勢力として黒木氏・木屋氏・星野氏などが挙げられます。



懷良親王肖像『鎮西菊池軍記』所収

征西將軍宮を迎えて、反撃に出た宮方

菊池に到着した親王は、先ず高良社(現在の高良大社)に、観音経普門品を書写奉納してきます。この経卷その物は某寺に今も伝世しています。本来はあるべき巻末の跋文がち切れています。

実は切られる前の経文と跋文を見た人物がいたので、貞享2年(1685年)に水戸光圀の『大日本史』に係る資料調査に訪れた佐々宗淳が、「奉納高良玉垂宮、正平三年四月日、征西將軍無品懷良親王」とあることを確認、「西行雜録」の中に書き留めています。この佐々宗淳こそ水戸黄門漫遊記に出る助さんのモデルです。

広川町古墳資料館だより

新型コロナウイルスの感染拡大後、臨時休館などもあり、来館者は通常の最大7割減少となりました。しかし、今年度は3月頃から増加傾向で、前年度の来館者数をすでに超えています。感染状況にもよりますが、ほかの歴史博物館なども、夏季の体験イベントや

企画展示会、講演会の開催が予定されており、当資料館も今秋には『銅矛里帰り展』や親子で楽しめる歴史体験教室などのイベントを順次企画中です。コロナ禍が完全に終息するまでは、緊張感を持ち、工夫を凝らした展示活動の必要性を感じています。



▲武装石人も織マスクで対策